

1. 基本情報

- (1) 国名：ベナン共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名
コトヌ市（人口：約 78 万人，2013 年国勢調査）
- (3) 案件名：
- (4) コトヌ立体交差建設及び道路改良計画(Projet d'aménagement de l'échangeur de Cotonou)
- (5) 事業の要約：
「コトヌ立体交差建設・道路改良計画」（以下、本計画という。）は、アビジャン・ラゴス回廊上に位置する交差点において、国際道路 1 号線からアーバン道路に向かう立体交差建設及び平面交差部改良並びに周辺交差点の信号制御を改善することにより、同交差点の交通混雑の改善を図り、もってコトヌ市及び同国内並びに西アフリカにおける物流改善及び成長産業の強化等経済構造改革に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ベナンは、国際場裡において我が国の基本的立場と一致する友好国であり、国家元首が過去 6 回開催されたアフリカ開発会議（TICAD）の全てに参加している等、我が国の対アフリカ政策において重要な位置付けにある。

同国は、西アフリカ「成長の環」広域開発において重要なアビジャン・ラゴス回廊（東西国際回廊）上の主要通過地であり、内陸国を結ぶコトヌ・ニアメ回廊（南北国際回廊）の起点となっている。とりわけ同国最大の商業都市であるコトヌは、西アフリカ主要港の一つであるコトヌ港を擁しており、域内の物流及び交通の要衝となっている。

我が国は TICAD VI において、G7 伊勢志摩原則に沿った「質の高いインフラ投資」の推進による連結性強化として、アフリカに対し約 100 億ドル（約 1 兆円）の質の高いインフラ投資を実施することを表明しており、本計画は同コミットメントの達成に貢献するものとして外交的意義が高い。

- (2) 当該国における運輸交通セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ベナンは、西アフリカのギニア湾岸に位置し、ニジェール等の内陸国やナイジェリア内陸部などへの物流の要衝となっているほか、ギニア湾沿岸のコートジボワールからナイジェリアまでの東西を結ぶアビジャン・ラゴス回廊上の主要通過地となっている。パトリス・タロン大統領は 2016 年 4 月に就任後、「政府行動計画」（Programme d'Action du Gouvernement 2016-2021。以下「PAG」という。）を閣議決定し、当国の域内における地理的な利点を生かして経済の構造改革を推進するため、「輸送インフラの強化」を重要戦略に掲げ、道路網の整備等のインフラ開発を進めつつ、成長産業（農業・畜産・水産の一次産業及びその加工、観光業等）を強化・育成していく方針を打ち出している。

同国の中心都市であるコトヌ市は、年間 994 万トンの貨物取扱量を誇り、西アフリカの主要港の一つであるコトヌ自治港を擁しており、同港を中心とした道路網の整備は PAG の重要な柱となっている。特に、同港からナイジェリアや内陸部（ニジェール等）に輸送される貨物は同市北部のノクエ湖を西に迂回し北上するルートを取るが、このルートは西アフリカ地域の南北国際回廊（コトヌ・ニアメ回廊）、東西国際回廊（アビジャン・ラゴス回廊）の一部を成すとともに、ギニア湾とノクエ湖に挟まれた東西に細長い形状の同市の最も重要な東西道路も兼ねる重要な道路網である。中でも通称「トヨタ前交差点」は、東西国際回廊である国際道路 1 号線と市東西を結ぶアーバン道路及び市内道路の分合流点であるため、同交差点への交通の集中（約 8,000 台/h 以上）は著しく、市内で最も渋滞が酷く、円滑な物流及び都市交通の妨げ、ひいては市民の安全及び当国の経済活動の支障になっている。本計画は、当該交差点に立体交差を建設し上記課題の解決を図るものであり、PAG の方針に合致し、優先度の高い事業として位置付けられている。

(3) 運輸交通セクターに対する我が国の協力方針等と本計画の位置付け

我が国は、TICAD VI にて「質の高いインフラ投資」の促進を掲げており、またベナンを含む西アフリカを総合広域開発支援にかかる重点開発地域の一つに定め、「西アフリカ成長リング回廊整備戦略的マスタープラン」の策定を支援している。なお、現在外務省では対ベナン共和国国別開発協力方針の見直しを進めており、重点分野にインフラ開発が含まれる見込みである。

(4) 他の援助機関の対応

欧州連合は、広域回廊の開発及び通関、過積載対策などの地域統合及びコトヌ・セメポジ間（ナイジェリア方面）の自動車道路整備を支援。アフリカ開発銀行は、アビジャン・ラゴス間高速道路に係る F/S 調査を実施中。

(5) 本計画を実施する開発政策上の意義

本計画は、同国の開発課題・開発政策並びに我が国の開発協力方針に合致し、交通混雑の激しい国際回廊上の主要交差点の交通混雑の緩和推進を通じて、当国及び西アフリカ地域における物流改善及び成長産業の強化並びにコトヌ市内の交通改善、市民の安全確保に資するものであり、SDGs ゴール 9 に掲げる強靱なインフラ構築、及び SDGs ゴール 11 に掲げる持続可能な都市の構築に貢献すると考えられることから、事業の実施を支援する必要性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本計画は、アビジャン・ラゴス回廊上に位置する交差点において、国際道路 1 号線からアーバン道路に向かう立体交差建設及び平面交差部改良並びに周辺交差点の信号制御の改善することにより、同交差点の交通混雑の改善を図り、もってコトヌ市及び同国内並びに西アフリカにおける物流改善及び成長産業の強化等経済構造改革に寄与するもの。

② 事業内容

【施設】1 車線×2 の高架橋建設（橋長想定約 500m）、平面交差部の改良（ラウンドアバウトから信号交差点に変更）

【機材】周辺交差点における信号制御システム等（協力準備調査により詳細検討）。

③ 他の JICA 事業との関係

技術協力「アフリカ交通人材育成プロジェクト」(2018 年～2020 年)では、モロッコにおける道路保守建設機械訓練センター等で建設機械の運用・管理、道路維持管理に係る研修を行うため、本計画実施機関関係者の参加を勧奨することで、交差点の維持管理に必要な技術や機材の管理方法習得と道路維持管理の能力強化を図る。

(2) 事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制

インフラ運輸省 (Ministère des Infrastructures et des Transports)

② 他機関との連携・役割分担

特になし。

③ 運営／維持管理体制

インフラ運輸省が担う。同省予算で市内主要交差点の交通量調査を行い道路整備計画に生かすなど一定の技術を有することは確認できるが、詳細な維持管理体制及びその能力については協力準備調査で確認する。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 ☐A ☒B ☐C ☐FI

② カテゴリ分類の根拠：

本計画は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010 年 4 月公布)に掲げる道路セクターのうち大規模なものには該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

(4) 横断的事項

特になし。

(5) ジェンダー分類

ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

(6) その他特記事項

特になし。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

マラウイ共和国向け無償資金協力「バラサーサリマ間国道 5 号線橋梁架け替え計画」(2011 年)の事後評価等において、橋梁の維持管理に係る予算を十分に確保することの重要性が指摘されている。本計画においても維持管理計画と予算措置の重要性を調査の段階から先方政府に申し入れる。また、ウガンダ共和国向け無償資金協力「カンパラ市内交通事情改善計画」(2013 年)の事後評価では、実施機関職員の離職が信号機の維持管理上の課題となった点が指摘されている。本計画においても、調査時に先方政府に維持管理人員の確保を申し入れるとともに人員交代があっても継続的に対応できるよう信号機の維持管理にかかるマニュアルの作成・配置を計画する。

以 上

[別添資料] 地図

